
はじめに

藤田美佳 東京外国語大学多言語・多文化研究教育センターの協働実践研究プレフォーラムを開会いたします。私は、センターフェローの藤田と申します。はじめに、本日のプレフォーラム開催の趣旨とねらいをご説明いたします。川崎市総合教育センターと東京外国語大学多言語・多文化教育センターは、本年4月「国際理解教育及び日本語学習支援活動に関する覚書」を締結し、国際理解教育の推



藤田美佳

進や帰国外国人児童生徒への学習支援等に取り組んでいます。その一環として、川崎市国際教育担当者・日本語指導等協力者研修と協働実践研究プレフォーラムを合同開催する運びとなりました。今回は、川崎市の国際理解教育の歩みを振り返り、時代とともに変化する国際理解教育のニーズを確かめ、これからの川崎市（神奈川県）の国際理解教育の方向性を探ります。

まず、東京外国語大学多言語・多文化研究教育センター長の北脇から、ご挨拶を申し上げます。

北脇保之 センター長をしております北脇です。川崎市の総合教育センターと私どものセンターは、協定を結んで、国際理解教育等の充実に努めているわけですが、そうした協力関係の一環として、本日この会が開かれることを大変うれしく思います。川崎市の関係の皆様、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

この機会に、私どもセンターについて少し説明しておきたいと思います。東京外国語大学は、ただ今、26言語の言語教育を中心に教育、研究を展開しており

ます。ご存じの通り、日本の社会も外国人、あるいは外国につながる人々が非常に増えてきて、大学としても目を国外に向けただけではなくて、国内の多言語・多文化状況についても研究をし、また教育をしていく必要があると考えてきました。それが私どもの役割ではないかということで、2006年に多言語・多文化教育研究センターができました。多言語化、多文化化というのは、一つの趨勢として現実になってくるとい面がありますが、よりよい多言語・多文化社会の姿を追求していくべきだと思っています。そういう点で、私どもは言語や文化の違いによって差別されたり排除されたりすることのないような、公正な多文化社会をつくっていかうということをめざしております。



北脇保之

その中で、多言語・多文化教育研究センターは、「教育」と「研究」、「社会連携」を三つの柱にしているのですが、研究の重要な事業の一つとして、協働実践研究というものに取り組んでおります。本日、この会は、川崎市の総合教育センターとしての皆様方の研修という性格と、私どもの協働実践研究のプレフォーラムの性格とを併せ持つ会として開催しております。

これまでは、大学の研究や調査と言いますと、地域に行くとアンケート調査やヒアリングなどをしてさっと帰ってしまう。後で、その研究結果がどうなったかという報告もないし、地域や関係者の方には何もプラスになることがない、何も返ってこない、そういう研究が非常に多いと言われてきました。それではいけない。私どもは、地域の皆さんと、課題の解決に向かって努力をしていく中で、普遍的に伝えていけるような研究成果を得ていこうと協働実践研究に取り組んでおります。その一つの研究班「佐藤・金班」は川崎を舞台にして研究を続けてきました。本日のこのプレフォーラム、そして研修が充実したものになりますように皆様方のご協力をお願いして、私からのご挨拶とさせていただきます。

藤田 続きまして、川崎市総合教育センターカリキュラムセンター室長の河野勝彦さんよりご挨拶いただきます。

河野勝彦 総合教育センターカリキュラムセンターの河野です。当センターと東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターは、国際理解教育の推進と、帰国外国人児童生徒への学習支援の取り組みを進めております。

当センターと東京外国語大学とのかかわりは長く、「アミーゴス」という学生のグループが川崎市の小学校でスタートさせた活動から始まったと伺っております。学生の方々の新鮮な観点・行動力が、時に川崎の外国につながる子どもたちを支え、時に協働でダイナミックな国際理解教育の事業づくりをつなげてきたと思います。

川崎市の国際理解教育の取り組みにつきましては、この後、当センター指導主事の佐藤から、20年間の歩みということでご報告させていただきます。今後も東京外国語大学をはじめ関係機関とよりよい提携を深め、常に原点を忘れずに人と人とのかかわりを大切にしながら、長い時間をかけて一步一步、国際理解教育の推進に努めてまいりたいと考えております。

本日はご多用の中、各小中学校の国際理解教育担当者、日本語指導等協力者および各市民間外国人市民代表社会など、関係機関の方々に多数参加していただいております。最後になりますが、本研修会が充実したものとなりますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

藤田 それでは、第1部は「川崎市の国際理解教育の歩みー20年前からの国際理解教育の実践、帰国外国人教育を振り返るー」と題しまして、川崎市総合教育センターカリキュラムセンターの指導主事の佐藤公孝さんからの報告です。